
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 350 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2013.04.19（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1,103 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言>

TPP 交渉参加新段階——「ならぬものはならぬ」を貫けるか 田口三樹夫

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.129』発行されました

<編集後記> スプリング・ハズ・カム・バック

<巻頭言> TPP 交渉参加新段階——「ならぬものはならぬ」を貫けるか

この 3 月 15 日、安倍首相は党内の農林議員等多数派の反対論を強引に抑え込んで「TPP 交渉」に参加すると表明した。

「聖域なき関税撤廃を交渉の前提としない」とオバマ大統領が答えたからというが、オバマ大統領は「聖域なき関税撤廃」を交渉の「前提にしない」と言うだけで、「聖域なき関税撤廃」について交渉で議題にすると明言したわけでもない。巧妙なレトリックである。国際交渉ではパワーポリティクスが物を言う。あらかじめ聖域の確保を約束出来るはずもない。だが、「交渉参加の国際公約」は動き出した。賽は投げられたと言わざるを得ない。

そもそもわが国の「聖域」とは何か。農業、医療、保険、郵政、知的所有権等広範な分野に関わりがあるが、「聖域」を農業で見ると、自民党が意図する条件闘争では、これまで締結した 13 カ国・地域との 2 国間経済連携協定（EPA）で関税撤廃から除外してきた農林水産物 834 品目を TPP の「聖域」として扱おうとしているが、政府はコメと砂糖を最重点に「聖域」167 品目に絞り込んで交渉に臨もうとしているようだ。しかしどれだけの成算があるのか。

それに、関税撤廃の次には非関税障壁の撤廃要求が控えている。わが国の厳

格な動植物検疫、遺伝子組換作物や品質保持に拘わる輸入規制は我慢ならない障壁であるとアメリカなどから苦情が尽きない。交渉が不調であればそこから降りると表明しているが、それは可能なのか。主導する米国の新市場主義経済の圧力は軟なものではない。

だが、貿易自由化を優先させ、国民の生活・文化を破壊することは許されない。「ならぬものはならぬ」という愚直な態度を貫きとおしてほしいものである。

田口三樹夫

山崎農業研究所幹事

yamazaki@yamazaki-i.org

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.129』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.129』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000 円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

TPP は食の安全を破壊する？◎野口 勲

〔第 38 回研究所総会・第 36 回山崎記念農業賞〕

総会挨拶◎安富六郎

第 36 回山崎記念農業賞贈呈式（NPO 法人 福島県有機農業ネットワーク）

〔選考委員報告〕◎田口 均

〔お礼の言葉〕◎渡部よしの

〔受賞にあたって〕有機農業が拓く持続可能な地域づくり◎菅野正寿

〔お祝いの言葉〕◎高橋久夫

〔総会記念フォーラム〕福島県有機農業ネットワークの皆さんを囲んで

(1)3.11 を文明の転換点に◎長谷川 浩

(2)放射能汚染の中での農の営み、この 1 年

—ネットワークの仲間に支えられて◎渡部よしの

(3)つなぐ・結ぶ・創る—生産と消費、現場と研究◎大江正章

[特別寄稿]

自然栽培を追いかけて◎元田裕次

「坂の上の雲」から「崖の上のポニョ」へ◎吉田太郎

〈連載〉“生きもの語り”の世界から 〈1〉

「生きもの語り」は科学への違和感から生まれた／宇根 豊

<編集後記> スプリング・ハズ・カム・バック

中学校英語で現在完了形を学ぶとき、定番のように出てくるのが「Spring has come. (春がやってきた)」である。

先日、地元の環境 NGO が主催する、春の野の草を食べるパーティーに参加した。

環境 NGO ちびっこ探険隊

<http://blog.livedoor.jp/bufobufoip/>

このパーティーは福島第一原発事故以降、2年ぶりである。子どもたちといっしょに、自生するヨモギをつんでつくったヨモギ団子を食べながら、ふと口について出たのが、「Spring has come back. (春がかえってきた)」だ。

「春がかえってきた」というのは、単に春が1年ぶりにめぐってきたという以上に、仲間たちと野の草を摘み、それを調理し食し、共に春のめぐみに感謝する……。そういうもろもろの意味がまじっている。だからそこには「おかえりなさい！ わたしたちの春！」といったニュアンスも含まれている。

Spring has come back. という表現が、英語として正しいのかどうかは別にして、それでも、わたしの心境にはピタリとはまるような気がしてならなかった。

2013年04月18日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバル化の次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575 円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考 - グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん（半農半 X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半 X という生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 351 号の締め切りは 04 月 30 日、発行は 05 月 02 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 350 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2013.04.19（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****